

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市 町 村 名 枚方市

実践研究校名 船橋小学校

【公開授業】公開日：平成26年2月5日

対象学年：第6学年

(教材・教科書名) Hi, friends! 2 (単元名) Lesson 6 What time do you get up?	(本時の指導の目標) ・積極的に自分の休日の過ごし方を紹介したり、友だちの休日の過ごし方を聞き取ったりしようとする。
---	---

(本時の授業において工夫した点)

- ・児童が積極的に外国語を話そうとする態度を育てるために、教師がモデリングを豊富に行い、児童が外国語で表現することへの抵抗をなるべくなくすための工夫をした。
- ・インタビュー活動を通して生活を表したり時刻を尋ねたりする表現に慣れ親しみながら他者への関心を高めるための工夫をした。

(授業を終えた教員の感想)

- ・中学校でチャンツをしているのを授業参観して、小学校でもやってみたいと思った。
- ・数字を表現することを重点的に指導した。
- ・5年生時から同じJTEに関わってもらっているので、2年間の積み重ねができていと思う。
- ・チャンツで覚えやすくするために工夫した。
- ・児童同士が話そうとしたり、聞こうとする態度をどんどん育てることをめざした。

【研究協議会】

(テーマ) 中学校を視野に入れた小学校外国語活動について	(指導・助言者) 関西外国語大学 外国語学部教授 並松 善秋 氏
---------------------------------	--

(研究協議会で出された意見)

- ・どの児童も自主的にかつ積極的に外国語を話していた。
- ・教師のデモンストレーションがバリエーションに富んでいたことで、児童が外国語で表現することに抵抗をなくし、積極性も生まれた。
- ・インタビューの内容やヒントになる言語や絵が黒板にしかなかったので、教室のいろいろな場所にあると児童の活動場所がもっと広がったのではないか。
- ・児童の会話がすべて英語だった。
- ・学習規律がきちんとできていた。
- ・ワークシートの欄がもっと多ければ、時間を持て余すことがなかったのではないか。
- ・自然な会話を習得させたいという教師の思いが児童に伝わり、積み重ねができた。
- ・チャンツの効果があらわれていた。

- ・インタビュー活動では、特定のクラスメイトとだけの活動に終わることなく、クラスの中での信頼関係の強さをうかがうことができた。
-

(まとめ)

1. モデリングの効果が児童に英語でインタビューしたいという気持ちを育てた。
2. 児童が積極的に英語でやり取りできる支援となるモデリングのありかたを引き続き探求するとよい。
3. 自分が発表すると、聞いている児童が応答するので楽しいと思え、それが学びになっていた。
4. ことばの学びの本質に迫った授業内容でよかった。
5. 小学校では「英語は楽しい。」と思わせ、中学校へつなげるとよい。
6. 児童が発表する場面をなるべく作るとよい。
7. 「聞く」活動に児童の興味を引き出す工夫をすること。英語を「嫌いにさせない」ことに留意し、児童の興味関心を引き出すことに最大のエネルギーと英知を集結するとよい。